

やまちゅうスクエア

吹田市立山田中学校 学校だより 令和5年度 第4号

「気づき」

校長 小早川 靖樹

いつものように校内を回って、数学の授業の様子を見ていた時のことです。ある生徒が「先生、これを求めるのに、なぜ掛け算を使う必要があるのかわかりませんか??？」という質問をしました。すると先生は「1mは何cmかな?」とその生徒に尋ねました。

「100cmです。」「じゃあ、2mは?」「200cm。」「3mは?」「300cm・・・、わかった!だから掛けるんだ!!」この時の生徒は、心から納得した顔をしていました。先生が少しヒントをくれただけで、掛け算を使うことの必要性に「気づく」ことができたのです。この生徒は自分で「気づき」を得るという大切な経験をしたと思います。

「気づき」とは、誰かから教えられたり、指示されたりすることなしに、自分の内面から生じる感覚的な「発見」や「ひらめき」のことです。イメージ的には、「あっ!そうか!」という感覚だと言えればわかりやすいかもしれませんね。

勉強でもスポーツでも、この「あっ!そうか!」という「気づき」の感覚をつかむことにより、自分の前にあった壁をすっと乗り越えた気持ちになり、もう一步先に進むことができるのです。みなさんには、この「あっ!そうか!」という「気づき」という感覚をたくさん経験してほしいと思っています。

それでは、「気づき」を多く経験するにはどうすればいいのでしょうか?それにはまず、いろいろなことに興味を持ち「なぜ?」「どうして?」という疑問を持つことが大切です。この「わかりたい!」という気持ちが次のステップにつながっていきます。そして、疑問を抱いたらまずはよく観察してみてください。物事を細かく観察すると、何かしらの「変化」を見つける場合があります。その変化が「気づき」のきっかけになります。たとえば、ルビンの壺などのだまし絵も、よく見ると人の顔が浮かび上がってきますよね。これも「気づき」です。

二つ目は、「視点を変える」です。ある物事を今までとは異なる角度や視点で見たり聞いたりすると、新しい何かを感じ、「気づき」が起きるきっかけになります。たとえば、「自分は計画性がない。」と思っている人は、見方を変えれば「臨機応変な対応」ができる人とも言えます。

このように「気づき」から答えを導き出すことができたときの成功体験が、自己肯定感を高めることにつながっていくのです。7月中旬からは個人懇談のため、午前中授業になります。そして21日からは皆さんが楽しみにしている夏休みが始まり、様々なことに挑戦できる時間ができます。この機会にぜひ新たな「気づき」を経験してほしいと思います。

☆市の研修会を実施しました

吹田市では、昨年度から「教師主導の授業からの脱却」「学習者中心の学習指導要領に基づく授業づくりの文化を築く」ことを目的として「能力ベースの授業づくり実践講座」(研修)を開催しています。

6月5日、本校において社会科(2年生)で研修会を実施しました。当日、80名を超える市内小中学校の教職員の参加があり、見方(視点)の違いにより様々な捉え方ができる、答えが1つではない課題に取り組みました。学習者(生徒)が中心となる授業とはどのようなものか、その中で教員はどのようなかわりが求められるのかを、参加した教員どうして考え、講師の先生からご指導いただきました。



☆授業参観

6月20日に授業参観を行いました。新型コロナウイルスが5類感染症の扱いとなり、4年ぶりに年度の早い時期で実施することができました。平日午後、ご多用にもかかわらず、約半数の339名の保護者の皆様にご来校いただきました。説明を聞く、ペア・グループで話し合う、作業(実習)を行う、考えて整理し表現する、他者の考えとの共通点や相違点を見出すなど、様々な活動の姿をご覧いただきました。子どもたちにとって質の高い、効果的な学習活動となるよう研究と実践に努めてまいりますので、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

